

○平山素子 大澤清二（大妻女大）

【目的】近年の食生活の急激な変化によって行事食はどのような変化をとげているのだろうか。代表的行事食であるお節料理を取り上げ、その喫食と調理の現状と年次的変遷、伝承の様子、ならびに行事食に対する意識について検討を行った。

【方法】正月および日常の食生活の様子について家庭の主婦を対象に1992年、2001年に質問紙調査を行った。

【結果】お節料理の喫食率は、1992年と2001年正月の間に有意な差が認められた品目（なます、昆布巻等）と認められなかった品目が混在していた。一方、調理率は、調査した全ての品目において、両者の間に有意な差が認められた。

お節料理を用意するにあたって「伝統・しきたり」に留意すると回答した世帯のお節料理調理品目数は、全世帯の平均調理品目数よりも有意に多く、調理者のお節料理に対する考え方が調理に影響を与えていることが示唆された。

また、1992年と2001年正月の間でお節料理に対する考え方は、「お節料理は正月になくてはならないものである」に対する回答は有意な差が認められなかったが、「お節料理を作らない家庭が増えているのは残念だ」に対する回答は有意に否定的に、「新メニューを取り入れるべきだ」に対する回答は有意に肯定的に推移していた。